

## 郷土摂津

## いにしえ通信

第40号 平成13年8月1日

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

TEL (06) 6383-1111 TEL (0726) 38-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>

第5回

8月

地藏盆

わがまち

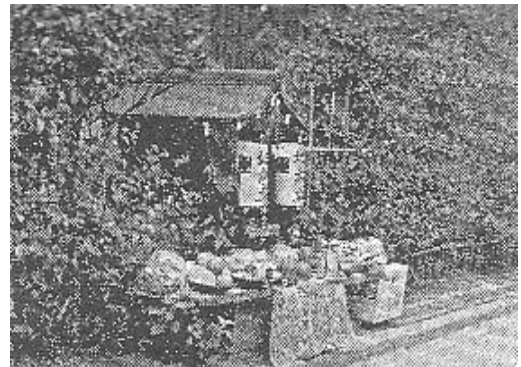
ちょっと昔の生活

地藏盆は8月24日に行われ、盆行事より地藏盆のほうが盛んでした。宗教的な行事というより、垣内（かいち）という地縁集団の結合の機会を提供しているのが地藏盆でした。村の人々は、地藏盆に情熱をそそぎ、地藏について強い関心をもっていました。それは、各大字にあった神社が明治時代に大きな神社に合祀されたことで、村の神を見失った村人は、自分たちの精神的統合を象徴する代替物をそれぞれ求めていったと考えられています。そのひとつが、地藏盆でした。たいていの地域では、こどものための行事で、お菓子や果物を供え、こどもが来たらお供え物を分け与え、残ったら寄付していただいた各家庭に配られました。

## 聞き取り調査から

○6時頃になると提灯に火を入れて「とんどのお陰で、百の米一斗五升（百粒の米が一斗五升になる）」と唱えながら村を回ります。《竹の鼻》

○「うちの村では、青年団の芝居がお地藏さんのご馳走でした。男ばかりだから女役もありました。たいへん有名で、よその村からも大勢の人が見にきました。昭和の初めには行っていました。」《八町》



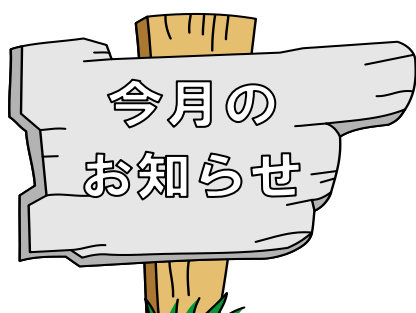
↑鳥飼野々の地藏盆

## 民間信仰とは

マチやムラといった地域社会で日常生活を送っている多くの民衆のあいだで培われ、育てられた信仰をいいます。宗教宗派の枠を超えて共同体のメンバーが輪番で行事を主催しています。

## 地藏とは

地藏は冥界と現実の境に立って冥界へ行くものを救うとされることから、道祖神・塞の神とも交わり村境や辻に祀られています。身近な存在だけに多くの救済を託され、そのご利益や祈願方法に応じて子安地藏などさまざまな名前がつけられています。



## 三島路発見 ～三島のくらし今昔～

講座や展示のご案内、活動報告など多彩な文化財情報を毎月お知らせします。

また、このページでは皆様の投稿を募集しています。



### 三島ブロック

島本町  
高槻市  
茨木市  
吹田市  
摂津市

| 回 | とき        | 学習内容(テーマ)    | 講師                  | 会場                     |
|---|-----------|--------------|---------------------|------------------------|
| 1 | 10月16日(火) | 郡山駅とその本陣について | 郡山宿本陣当主<br>梶 洸氏     | 茨木市上中条青少年センター・研修室      |
| 2 | 10月22日(月) | 京阪両都の中間に     | 郷土史家<br>松本 恵光氏      | クリエイトセンター(茨木市市民総合センター) |
| 3 | 10月30日(火) | 戦国時代と三島      | 大阪歴史懇談会代表<br>横山 高治氏 | 高槻市総合センター<br>14階C1401室 |
| 4 | 11月6日(火)  | 伊勢姫と高槻       | 伊勢寺住職<br>松浦 寛法氏     | 高槻市立城内公民館<br>多目的室      |
| 5 | 11月14日(水) | あなたの下にも活断層   | 同志社大学教授<br>横山 卓雄氏   | メイシアター(吹田市文化会館)・集会室    |
| 6 | 11月20日(火) | 島本の昔話と伝説     | 郷土史家<br>奥村 寛純氏      | 島本町ふれあいセンター<br>第4学習室   |
| 7 | 11月27日(火) | 水と戦った鳥飼の暮らし  | 郷土史家<br>小林 貞夫氏      | 摂津市総合福祉会館<br>第1会議室     |

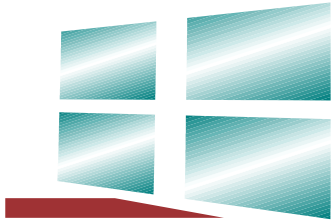


時間はいずれも午後2時から4時まで

## 参加を希望の方は

**テーマ** 三島路発見～三島のくらし今昔～  
**期間** 平成13年10月16日～11月27日  
**募集定員** 各市町20名  
**対象者** 原則として全7回参加可能な方  
**参加費** 300円(保険代)  
 (交通費は自己負担です。)

往復はがきに、住所・氏名・年齢・電話番号・返信にあて先を明記の上、平成13年9月14日(当日消印有効)までに下記へお申込みください。  
**566-8555 摂津市三島1-1-1**  
**摂津市教育委員会 生涯学習課**



## 郷土史コーナー

意外と身近な郷土の歴史を紹介していきます。

味生(あじふ)の歴史

### 新在家

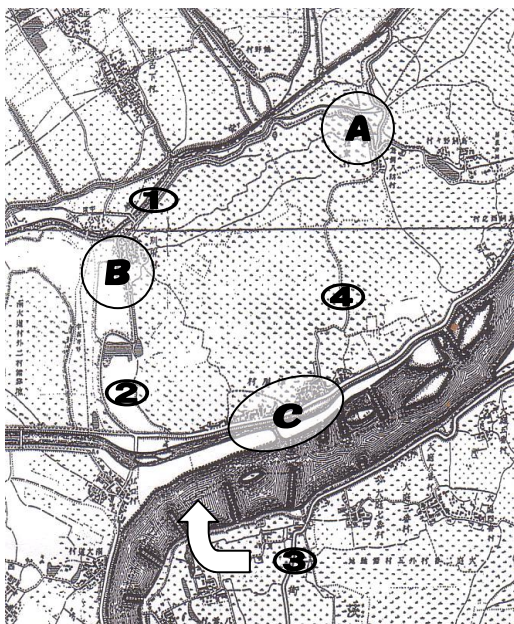
一津屋村・別府村とともに「三か村」と総称され、水防上三村だけの囲堤を形成していました。村の北部の堤外は新在家浦とよばれる沼地で、そこに三ヶ牧郷(現高槻市)、島村(現茨木市)、鳥養郷・鶴野新田の排水が集まって鳥飼井路に注いでいました。東は鳥養郷との境であるうげふせ縄手をもって鳥養八坊村と接していました。集落は同縄手に沿い、村の中央を富田村(現高槻市)方面への道が東西方向に通っていました。古代の鮭生野、中世の味原牧に含まれていたといわれています。

慶長10年(1605年)の摂津国絵図に「新在家」とあります。寛永～正保期(1624年～1648年)の摂津国高帳には「新在家村」として304石余が記されています。

当時の領主は京都所司代板倉重宗で、その後の領主の変遷は一津屋村と同じです。

農間余業として藁(わら)縄稼があり、慶応2年(1866年)には、年平均1,000貫程度を大坂の中間屋に売りさばっていたことが、誓源寺文書に記されています。また、明治9年(1876年)頃には、50石未満の和船が7艘あり、安威川の舟運に利用されていました。江戸時代には、安威川を運航する下屎船もあり、享保7年(1722年)から嘉永2年(1849年)にわたる過書方との抗争にも村人が参加しています。慶応4年(1865年)に着手された鳥飼井路の開削にあたり、その代償として鳥養郷は新在家村に新しい舟路を掘削、新在家浦別府口へ門樋を設置しましたが、この門樋の開閉や舟路をめぐる、しばしば当村と鳥養郷・三ヶ牧郷間で争論を繰り返しました。「平凡社・大阪府の地名」より

担当 (茗荷)



明治18年の地図より加筆

### 味生三か村の位置

- ①旧安威川②旧神崎川③淀川
- ④和道(うげふせ縄手)
- A新在家村 B別府村
- C一津屋村

- ①安威川改修(明治42年～大正2年)により、浜町が安威川の北側になりました。
- ②神崎川のつけかえが明治11年より、デ・レーケの指導により行われました。

## 第5回

埋もれた  
摂津市の歴史

発掘調査で明らかになる摂津市の埋もれた歴史をシリーズで紹介していきます。

平成9年度  
蜂前寺跡  
1次調査

←須恵器短頸壺  
前回説明しました須恵器甕のなかに置かれていました。甕と同じく半分が削平されていました。古墳時代後期の遺物です。

## 土坑について

このときの発掘調査では、4つの土坑（どこう）が見つかりました。土坑とは地面に掘削された穴のことで、柱穴などあきらかに人為的に掘削されたものも含まれます。発掘調査では、通常たくさんの土坑が見つかります。しかし、そのすべてが建物に関わるものとは限りません。また、同一面で見える土坑がすべて同じ時代のものとも限りません。通常切り合いと呼ばれる前後関係があるものです。発掘調査では、これらたくさん見つかる土坑がどのような間隔で並んでいるか、どのような土が堆積しているか、どのような遺物が含まれているかなどを検討して、建物がどのように配置されていたかを考察します。

今回の発掘調査では、限られた面積ということもあり4つの土坑の検出のみでした。これらは、いびつな楕円形で長軸1.5～2mの範囲でおさまります。埋土は暗黄褐色砂質土です。本来は円形をした柱穴から柱を抜き取った場合に楕円形になる場合があります。しかし、今回検出された土坑は並びがそろわず、建物跡が想定できるような状況ではありませんでした。

これらの土坑からは、須恵器・土師器・瓦・陶磁器など各時代の遺物が見つかりました。遺物の時代に幅があり、まぎれこみの可能性があります。また寛永通宝が出土した土坑があり、年代は江戸時代以降と想定されます。 担当 （伊部）



手前は溝、奥が土坑のひとつ。十字に見えるのは土坑内の埋土を確認するために人為的に残したあぜです。最後は全て掘削します。